



発行  
天理教本愛大教会

〒453-0821  
名古屋市中村区大宮町 1-60  
TEL (052) 461-4326  
FAX (052) 461-4320

〒632-0071  
奈良県天理市田井庄町 19-1  
TEL (0743) 62-0378

編集責任 広報部

立教182年 活動目標

- 「恩報」の実行
- 初参拝の推進と新ようぼくの丹精
  - 報恩感謝のおつくしの徹底
  - 若者にご恩報じの心を伝えよう
- ◎一名称が本年までに三人の修養科生を守護頂う  
◎報恩感謝別席参の実施(6月23日・11月24日)

# 近づく「こどもおぢばがえり」

## 子供たちの真夏の祭典、今月26日に開幕

今年も7月26日から8月4日までの10日間、親里において「立教182年こどもおぢばがえり」が開催される。毎年楽しみにしている子供たちも多く、今年も大勢の子供たちが笑顔で夏のおぢばに帰ってくる。

この夏の一大行事の開幕まで、残りひと月足らず。現在、親里や各話所では、受け入れの準備が急ピッチで進められている。

「立教182年こどもおぢばがえり」が開催される。今年も「ありがとう！ よろこびつなごう おやさとへ」のテーマのもと、本愛団はじめ各隊でも、帰参者の募集に向け、一手一つに取り組んでいる最中だ。

幕に向け、親里では数多くの「しこみ・ふせこみ行事」と「お楽しみ行事」の準備が進められている。お茶所や救護、宿泊先となる各信者話所でも受け入れ体制が整いつつある。

またそれぞれの土地所でも、一人でも多くの少年会

員をおぢばに連れ帰らせていただくべく、団参募集に拍車がかかっている。

夏のおぢばで繰り広げられるこの子供たちの祭典が、参加してくれた子供たちの心に、楽しい思い出として刻まれるよう、努めさせていこう。引率する

育成会員は、子供たちと送り出してくれる保護者の方々に安心してもらえるよう、心を配らせていただきたい。

天理時報でも報じられた通り、来年のこどもおぢばがえりの行事や日程について、変更・見直しが行われる。その中には、鼓笛隊の発表の場の一つでもある「おやさとパレード」も含まれている。

本愛鼓笛バンドは今年も7月28日に夜のパレードに出演する。今年是非とも、その勇姿を目に焼き付けたものだ。



日時  
令和元年7月20日(土)  
◎受付：9時 ◎開講：10時  
◎シャトルバス(名古屋駅→大教会)  
9時～10時まで運行

参加御供 500円

7月のこよみ	
入社祭	1日 午前10時
祭典後、教会長連絡会 よふき会例会	2日 午前10時
こはる会例会	7日 午前10時
月次祭	13日 午前10時
祭典後、縦の伝道講習会 布教実修所	14日 午前9時30分
むつみ会例会	16日 午前10時
婦人会創立110周年 会員決起の集い	20日 午前10時
青年会例会	20日 午前10時
女子青年例会	20日 午前10時
雅楽勉強会	22日 午前10時
本愛ようぼく錬成会	24日 午前10時30分
本部月次祭	26日 午前9時
立教182年こどもおぢばがえり	26日～8月4日

第91回婦人会本愛支部総会記念講演 要旨



郡山大教会部属・  
中千住分教会長  
白熊 繁一 先生

私は日頃、家内と共に里親をしたり、保護司として罪を犯した青少年の更生に携わったり、東京のある少年院の教誨師として子供たちと接する日々を過ごしております。その日常は、親神様の大きな親心の中で生きるご守護を頂戴し、そして教祖に抱かれての日々であります。日頃のおたすけや教会生活、様々な御用を通して感じる親神様の親心、教祖の温もりの情景をお話ししたいと思えます。

■幸せになるための鍵

先週少年院に行った時のことです。毎月少年院では、40〜50人の子供たちに1時

間の話をいたします。先週は幸せという題で話をいたしました。子供たちに目をつぶってもらい、今幸せだと思ふ人は手を挙げてごらんとすると、3人ほどの子供が手を挙げました。少年院の高い壁に囲まれ、部屋には鍵のかかった環境ですから、私はゼロだと思つていました。3人の子が手を挙げてくれたのです。

私は彼らの答えを次々にホワイトボードに書いていききました。ペットの犬と答えたり、彼女と答える子もいたり、いろいろな楽しい答えが返ってきました。ホワイトボードがいつぱいになつた時に、もう一度問いかけました。ここに書いたものが全部手に入ったら幸せになれるだろうか。

私は2つのことを彼らに投げかけました。1つ目はお金についてです。私の知り合いに、大金持ちの方がいます。たくさん土地や不動産を持ち、駐車場経営、マンション経営をしていて、お金には困らない生活をしていきます。ところがある時、その人が私のところに資産をめぐる相談に来たんです。実は兄弟や親戚から分与するように言われて揉めていきます。明け方や深夜に電話がかかってくる、強面の人を連れてきたりと、おちおち寝ていられない。寝る

ときは木刀を布団の下に忍ばせて眠っているという話でした。そして私への相談は、どうやって分配したらいいかということではなく、どうしたら分配しないで済むかとの相談でした。そんな答えは、あるわけありません。どうぞ弁護士に相談してくださいと答えましたが、少しだけ八つのほこりの話をいたしました。そして私がその方にお金がたくさんあつて幸せですねと言ふと、いやいや幸せではありませんと言いました。世の中にはお金をたくさん持つていても、寝ることをできない人がいることを子供たちに話しました。

そしてもう一つは健康です。先ほどとは別の方ですが、今、末期がんで明日の命も分からないという方がいます。その方とは一日に一度だけメールのやりとりをしていきますが、そのメールには「先生、今日も一日

ありがとうございました。今日は孫がお見舞いに来てくれました。なんて幸せなのかと思います」と書かれていました。明日の命も分からない人が幸せだと言っている。そのことを子供たちに聞いてもらおうと、私の正面にいた少年がシャツの袖で涙を拭きました。何か心に感じたんだと思います。幸せってなんだろうと少年たちに問いかけました。答えが返つてこない、シーンとした教室の中で、幸せとは、お金や物や環境といったものではない。私たちの周りには、ありがたいことが、うれしいことが、実はいっぱい転がっている。それに気づけることが幸せなんだと話し、一人ひとりの心の中に、その幸せの鍵があるのだと伝えました。

そしてもう一度目をつぶってもらい、今朝起きてから今日私と出会うまでを振り返り、よかった、あり

がたいと思うことを答えてもらいました。すると子供たちが、今日のパンがおいしかった、今日もおしっこ出ました、昨日お母さんが面会に来てくれて嬉しかったと、次々に気づいた喜びを答えてくれました。

話を終え最後に、もう一度目を閉じてもらい、今幸せだと思ふ人は手を挙げて

ごらんと言うと、ほぼ全員の子が手を挙げました。子供たちに幸せとは何かを伝わったかなと思いました。

■軸に繋がる心定め

逸話篇の中にもぶどうの話があります。「この葡萄のようになあ、皆、丸い心でつながり合うて行くのやで」。私の大好きな言葉なんです。

ある時、知人のご婦人に、高校生の息子が非行に走って悪いことばかりしている」と相談を受けました。その方は日頃、はげ口のない方

でしたので、私に息子の悪行の数々をぶつけました。さんざん息子の話をした後で、今度はご主人の悪口を言うのです。うちの主人は一切かまってくれない、家では一言の話もないと、私に日頃の不足をぶつけられ私は黙ってそのお話を聞いておりました。

その後、私は教会でお願いごとめをし、ふと逸話篇を広げたときにこのぶどうの話が出てきました。そして教祖に「たった3粒のぶどうなのですがバラバラなんです。どうしたらいいでしょうか」とお尋ねする日々を過ごしました。

ある時、教会にぶどうのお供えをいただきました。夕方お下げをして、テーブルの上にそのぶどうを置いて、じっと眺めました。眺めながら「教祖、どうしたらこのぶどうのように、人は繋がっていただけるのでしょうか。私は何をしたら良い

のでしょうか」と心の中で教祖にお尋ねしました。しばらく見つめてみると、教祖が気づかせてくれたのです。ぶどうの粒は、最初からみんなバラバラでくっついていないんです。どこに繋がっているかという軸に繋がっているんです。ではこの軸とは何か。この軸こそが親神様の教え、教祖のお心だと気づいたので。

私はこの離れた粒をどのように戻そうか、どうしたらかえってきいてくれるだろうか、そんなことばかり考えて、このお宅へ行っておりました。ところがそんなこと考える必要はなかったのです。私自身がしっかりとこの軸に繋がればいい。そうすれば親神様が私の心を丸い形にしてくださる。

丸い心になって、おたすけに行けば、相対する人を傷つけずに済む。そのように思案して心を定めました。すると、そのお宅に伺っ

たある日、ご主人が早く帰ってこられました。「今日は白熊さんが来ると聞いていたので早く帰ってきました。一杯飲みましょう」と言ってバッグの中からお酒を出して、私のグラスに注いでくれました。そして私も、ご主人のグラスに注いでお酒を頂きました。その様子を見ていた奥さんは、さつと台所に立ち、料理を作って持ってきてくれたのです。すると、ご主人が奥さんに向かって「お前も飲むか」と言って、奥さんの持つグラスにお酒を注がれました。この時、奥さんが満面の笑みを浮かべました。私に通いだしてから見たことがない、そんな朗らかな笑顔が私に向けてくれました。

私はこの2人の姿を前に、心の中で手を合わせ、教祖ありがとうございます。2粒かえってきました。教祖のおかげですとお礼を申し上げました。

このおたすけからもう何年もの月日が流れています。が、今このお宅を訪ねると、悪行の数々を繰り返していた息子も一緒に帰ってご飯を食べています。

教祖にお話ししながら、気づかせていただき、たった1つの心定めですが、それでご守護を頂戴した、本当に嬉しい出来事でした。お道は、教祖一人の温かいお心から始まり、何年も何代も経て、今私たちがいます。この教祖の温もりを、今度は私たちが、お道を知らない人たちに伝えていくことが役目ではないでしょうか。難しいことはいんです。親神様の教え、教祖のお心という軸に繋がってれば、あとは親神様が私たちの心を丸い形にして、おたすけに使ってくださる。丸い心で教祖のお心を伝えていくことが、私たちの務めだと思います。

（文責 広報部）

教理随想



言わん言えんの理を探る

八つのほこりの六番目は「はらだち」です。

人はなぜ腹が立つのでしょうか。それについて別席のお話では、

腹の立つのは気ままからでありませぬ。心が澄まぬから、楽す

ぎるからであります。と説き諭されています。

「心が澄まぬ」とは、心が埃にまみれているということ。すなわち自分の言い分や立場を先に立てて、相手の気持ち、言い分を分かつろうとしないから腹が立つのだと、非常に的確な指摘をされています。

日常生活の中で腹立ちまぎれに切り口上を言ったりあるいは暴力を振るったりすれば、取り返しのつかないことになる場合がありますし、謝つてすまないこともある。そう思うと、この指摘は実に大切な心得といえるでしょう。

自分ではそれ相応の理由があるつもりでいても、よく思索してみると、結局は自分の考えや判断だけを押し立て、自分の立場からだけものを見ようとするから腹が立つのではないのでしょうか。自分の立場や判断に固執せず、心を澄まして思索する心になれば、そこから反省する心が生まれてくるようにも思います。

一方、医学的には、腹を立てると血液が粘つくことなるといふことがあるそうである。心筋梗塞や脳梗塞を引き起こしやすいともいわれます。つまり「はらだち」の心使いはそれ自体が身に障る訳です。だからできるだけ腹を立てずに、陽気に暮らすうということになるのです。肝心なことは、気持ちが切り換えるための手掛かりです。そのためにはどうすればよいのかということについて、別席のお諭しは次のように続きます。

【第55回】

腹の立つのは気ままから、常に理を立てる信仰忘れず

「理を立てる」とは、言いかえれば、教祖の教えを判断基準の中心に据えて、深く広く物事を思索することでありませぬ。

■教えを切り所に

また、教えによれば「はらだちは切る理」であり、「たんのうはつなぐ理」であります。腹の立つた出来事を思い出してはまた腹を立てる。しかもそれを悪いとは思わずに、俺が腹を立てるのは当たり前だ、などというような心持ちでいれば、その積み重ねは人間関係にも仕事にも、また健康の上にも「切る理」が働いて、様々な場面で支障が現れます。そう思うとお道の信仰者は、教祖の教えを聞かせてもらっているおかげで、一時は腹が立つてもその後で教えを基準として反省し、申し訳なかつた気持ち切り換えることができる。これは実にありがたいことです。

誰でも腹を立てずに毎日穏やかに過ごしたいと思ふでしょう。しかし安易な逃避やごまかしはかえって事態を悪くしかねませぬ。「はらだち」のほこりを払うには確かな心の切り所が必要で、

そこで常日頃から天の理に照らして「いんねんの自覚」と「たんのう」の精神を常に養つておく努力が大切になってきます。現れてくる状況を、鏡に映つた自分の魂の姿だと悟り、教えをほうきとして胸を掃除しながら成人の道を歩んでいきましょ。

# 報恩感謝の心でおぢばに集い

—— 別席団参実施 11月にも ——

本年の活動目標の中にも掲げられている「報恩感謝別席団参」が6月23日に実施された。

この日に合わせ、多くの教会で団参が行われ、親里には大勢の本愛ようぼく信者が帰り集った。

事前の雨予報に反して、過ごしやすい一日となったこの日。正午のおつとめに



東礼拝場前には本愛につながる大勢のようぼく信者の姿が見られた

合わせ、バスやワゴン車などが続々と各駐車場に到

## 縦の伝道講習会

7月13日 月次祭祭典終了後

少年会本愛団では7月13日、大教会の月次祭に引き続いて「縦の伝道講習会」を開催する。

講習会は、縦の伝道の理念と少年会活動の意義や活動方針の徹底を図るため、育成会長、育成会員を対象に開催するもの。次代を担う子供たちに教えを伝えていけるよう、本愛団では育成会員らを中心に受講を促している。

着。東礼拝場は、たくさんのお参拝者で埋まった。おつとめ後には、初席・中席を運ぶため、別席場へ向かう人の姿も多く見られた。

午後1時30分からは、旧いろは教室横の講堂で、おはなし会が行われ、初席参者らを対象に、安藤正二郎・役員が教えの概要などについて、分かりやすく話した。

報恩感謝別席団参は、11

学生担当委員会

## 学生生徒修養会・高校の部

### 参加者募集

8月9〜15日まで、親里において「学生生徒修養会・高校の部」が開催される。

これは、全国から集まる高校生が、1週間のおぢばでの合宿生活を通して友情や信仰を深めるもの。多感な高校生層が、さまざまな経験を通して成長する貴重な場となる。

月24日にも行われる。さらに多くの人が親里に帰ることができるよう、日ごろのいをいかけ・おたすけ活動の充実が期待されている。



おはなし会は、主に初参拝者や初席参者を対象に実施された

本愛学生担当委員会で、20人の参加を目標に受講を呼び掛けている。

なお、集合は8日午後4時、解散は15日午後2時の予定。いずれも大教会となつている。受講希望者は、7月20日までに参加費1万3千円を添えて、神殿事務所まで申し込みを。

## ハイタイム

火事に注意する季節というわけでもないが、近頃いろいろなもの「炎上」するらしい。SNSのこ

とである。政治家や芸能人のスキャンダル、失言、不謹慎な行動……。一般人から大企業まで、指摘を受けて謝罪に追い込まれる例は後を絶たない▼ある意味では、皆が自身の言動に注意するきっかけになるかもしれない。しかし、現代日本を包む「生きづらさ」は、こうしたところから生まれているのではないかと▼皆、それぞれの正義がある。その「正しさ」を振りかざし、間違いを犯した人を徹底的に叩く。そんな炎上の繰り返しから、より良い社会は生まれるだろうか▼正義は容易に暴走する。燃やすのではなく、過ちを犯した人間の心を潤すような人こそ「いいね」したいものだ。

第93回教人資格講習会

修了者

(令和元年6月10日付)

本良心 長良 英男

以上1名

5月のおさげの理拝戴者

本海部(本海門) 水谷 大紀

本美幸 田村 直斗

以上2名

5月の初席者

本美郷 和田 尚久

以上1名

石川幸子氏(本向島分教会  
三代会長)

6月1日に出直された。

享年95歳。告別式は6月12

日午後2時より、世話人・

石川文彦役員を齋主として

大教会華洲館で執り行われ

た。

石川利郎氏(大教会理事・

本修行分教会二代会長)

6月19日に出直された。

享年97歳。告別式は6月22  
日午前10時より、大教会長  
を齋主として執り行われ  
た。

氏は本部詰員、大教会責  
任役員、大教会理事、会計  
部長、教務部長、愛知教区  
主事、西区支部長などを務  
めた。

お詫びと訂正

6月号6頁、おめでたの  
記事で「奥陽分教会ようぼ  
く・小野芳雄氏」となつて  
おりましたが、「奥陽分教  
会長・小野芳雄氏」の誤り  
でした。ここに、お詫びし  
て訂正いたします。

広報部

若いお父さん・お母さんへ

家族ぐるみで  
教会へ  
参拝しましょう

婦人会・青年会・少年会からの提唱

大教会日誌

令和元年5月25日～令和元年6月24日

5月

26日 本部月次祭

27日 ほんあいいOKKIKO

書道、ピアノ、ダンスの各クラス

31日 常任役員会議◇役員会議

6月

1日 入社祭

祭主・大教会長 扨者・大橋 進、吉田克義

指図方・板山公司 賛者・津田豊郎、細川 明

◇おたすけ講話—鈴木友郎

◇教会長連絡会

2日 よふき会例会

おつとめ・十二下りてをどり、連絡会

12日 常任役員会議

13日 月次祭

祭主・大教会長 扨者・佐藤正成、吉田正信

指図方・出口道男 賛者・長尾 誠、佐藤幸一郎

◇祭典講話—中島功雄

◇大教会長挨拶

14日 布教実修所

15日 雅楽勉強会

女子青年例会

こはる会例会

16日 むつみ会例会

おつとめ、にをいがけ

17日 こども食堂MOGU (参加者47人)

20日 婦人会例会

21日 おはなし会

23日 報恩感謝別席団参

24日 本愛ようぼく錬成会

ほんあいいOKKIKO

書道、ピアノ、ダンスの各クラス